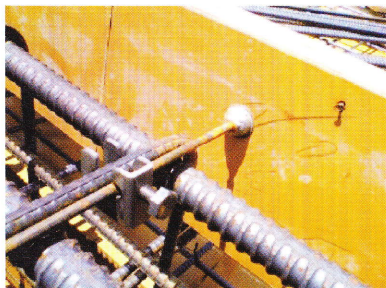
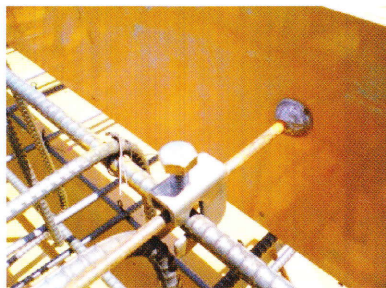


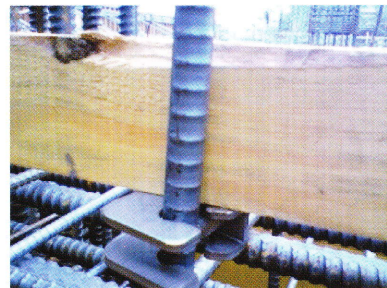
型枠大工さん必見！ 溶接いらずの万能金物



① D13とセバの平行締付け



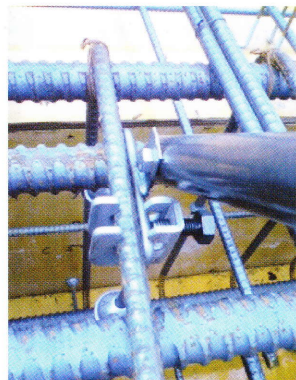
② D13とセバの直行締付け



③ 単独使用での浮かし



④鉄骨等からのセバ引



⑤スーパーアンカーの固定



⑥D10を利用した浮かし



⑦D13を利用した浮かし

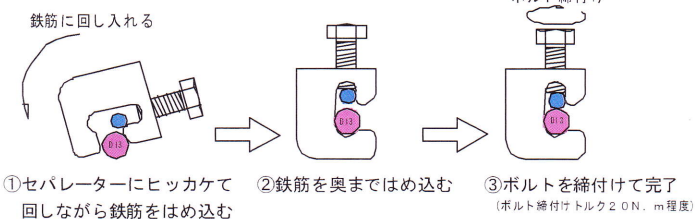
6通り以上の組み合わせを簡単ロックの

※ あなたしだいでもにも使い方はいろいろ

※ 用途

土間止め型枠、スラブ段差型枠、P Cスラブからのスラブ引き
段差型枠の浮かし、鉄骨等からのセバ引き、フラットバー等の固定等

※ 取付け方法（平行締付け時）



※ 注意事項

鉄筋D10とセバの平行締付け及びセバ同士の平行締付け時は、
上部材がA部から外れる恐れがある為
図1、図2の様に上部セバを奥面に着けて締付けてください。
ボルトの締め過ぎによる金物自体の変形により
所定の強度が得られない場合がある為
締付けトルクは、20N・m程度で行って下さい。

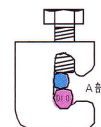


図1
(鉄筋D10とセバとの平行締付け)

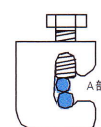
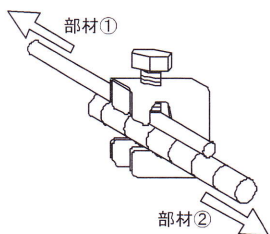


図2
(セバ同士の平行締付け)



平行締付け時の引張荷重		大東鋼業株式会社 調べ	近畿高エネルギー 加工技術研究所 調べ	※ 1 許容引張荷重(N)	(参考) セバ端部の ネジ部での締付け 最大引張荷重(N)
部材①	部材②	最大引張荷重(N)	最大引張荷重(N)		
セバ W5/16	セバ W5/16	—	1,809(184kgf)	1,628(166kgf)	—
セバ W5/16	鉄筋 D10	3,150(321kgf)	3,000(306kgf)	2,700(275kgf)	5,293(539kgf)
セバ W5/16	鉄筋 D13	3,250(331kgf)	3,137(319kgf)	2,823(287kgf)	6,206(632kgf)
鉄筋 D10	鉄筋 D10	8,350(851kgf)	8,312(847kgf)	7,480(762kgf)	—
鉄筋 D10	鉄筋 D13	10,700(1090kgf)	10,106(1030kgf)	9,095(927kgf)	—

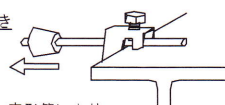
※ 1 許容引張荷重は、安全面を考慮して 2箇所の試験場で
引張試験を行い、その小さい方の数値に、0.9を乗じた値にしています。

※ 参考資料

(近畿高エネルギー加工技術研究所 調べ)

最大引張荷重(N) 3,471(354kgf)

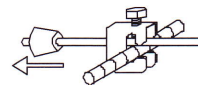
※ 鉄骨等からのセバ引き荷重は、塗装、汚れ、変形により
異なりますので、それらを踏まえて判断して下さい。



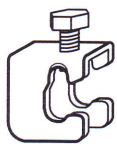
D13から直行引き

最大引張荷重(N) 1,728(176kgf)

※ 鉄筋等からの直行引き荷重は、鉄筋径及び引張方向により
異なりますので、それらを踏まえて判断して下さい。



※ 現在の金物は、D13、D10兼用タイプです。その他のサイズは検討中です御了承下さい。



※ 溶接いらずの万能金物「カンロク13」に待望の仲間

カンロク16 新登場

※ 従来品「カンロク13」と新製品「カンロク16」とを区別する為
従来品を「カンロク13」と記しています。

(鉄筋 D16とセパレーターの締付け OK!)

用途

土間止め型枠、スラブ段差型枠、PCスラブからのスラブ引き
段差型枠の浮かし、鉄骨等からのセパ引き、フラットバー等の固定等

使用方法

鉄筋に回し入れる

①セパレーターにヒッカケて
回しながら鉄筋をはめ込む

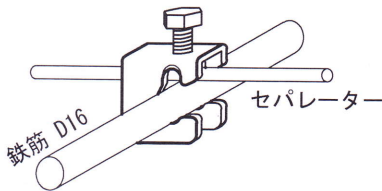
②鉄筋を奥まではめ込む

ボルト締付け

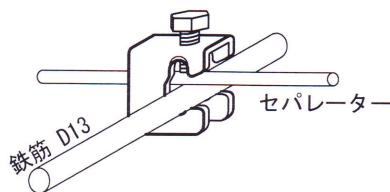
③ボルトを締付けて完了

(ボルト締付けトルク 20 N・m程度)

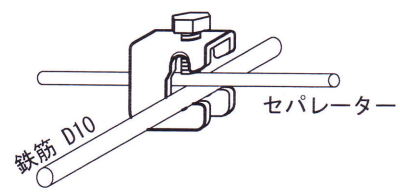
使用例



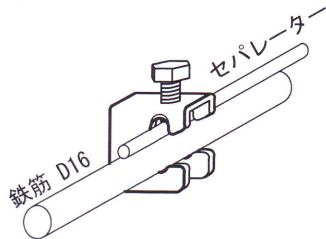
① 鉄筋 D16とセパの直行締付け



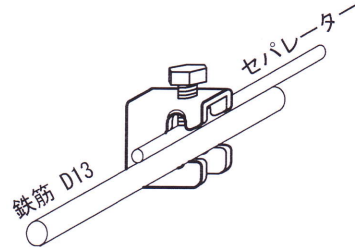
② 鉄筋 D13とセパの直行締付け



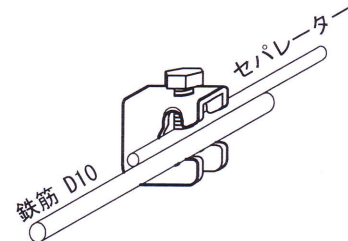
③ 鉄筋 D10とセパの直行締付け



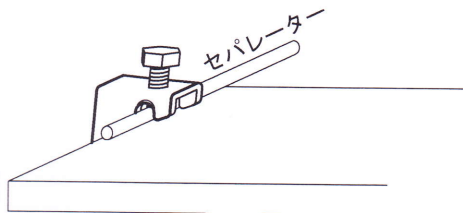
④ 鉄筋 D16とセパの平行締付け



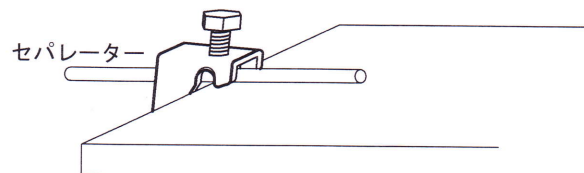
⑤ 鉄筋 D13とセパの平行締付け



⑥ 鉄筋 D10とセパの平行締付け



⑦ 鉄骨等とセパの平行締付け
鉄板 厚 17mm以下



⑧ 鉄骨等とセパの直行締付け
鉄板 厚 17mm以下

※ 鉄板 厚 13mm以下は、従来のカンロク13をお勧めします

※ 注意事項

鉄筋 D13及びD10とセパレーターの平行締付け時

A部からセパが外れる恐れがある為

右記図1, 2の様に金物奥部にセパを付けて締付けて下さい

(上記の締付けには、従来品の「カンロク13」をお勧めします)

ボルトの締め過ぎによる金物自体の変形により

所定の強度が得られない場合がある為

締付けトルクは、20 N・m程度で行って下さい。

上記 使用例 ②, ③時は、直行(90度)で締付けてください

許容角度を超え、締付けを行うとセパレーターがボルトから外れる恐れがあります

(右記図3 参照)

(上記の締付けには、従来品の「カンロク13」をお勧めします)



図1

(鉄筋 D13とセパとの平行締付け)



図2

(鉄筋 D10とセパとの平行締付け)

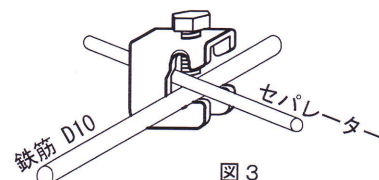


図3

※ 新製品「カンロク16」は、コンクリート表面との **カブリ** 等の観点から

金物自体を従来品の「カンロク13」と同じ大きさに設定しています。現場等での区別、取り扱いに注意してください。